

株主のみなさまへ

KAWATA IR Report

第74期 報告書

2022年4月1日～2023年3月31日



株式会社 **カワタ**
証券コード 6292



TOP MESSAGE

現場第一主義を基本姿勢とし、創業以来培ってきた技術を基に、お客様の生産活動の改善につながる提案と、お客様に喜んでいただける製品・サービスを提供することにより、世界の人々のより豊かで安全な暮らしに貢献します。

代表取締役社長 白石 亙

株主のみなさまには、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに当社の第74期報告書をお届けいたします。株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年6月28日



当期における業績について

当期の世界経済は、各国においてコロナ禍からの経済正常化が進む一方、ウクライナ情勢の長期化や資源価格の高騰、及びこれらを背景としてインフレが進展するなど、依然として不透明な状況が続いております。

わが国経済も、ウイズコロナ政策のもと経済活動の正常化が進み、内需を中心として緩やかに持ち直す傾向にありましたが、設備投資については、資源価格の高騰や円安等に伴う物価上昇などの景気下押し圧力を受け、先行き不透明感が強まっております。また、設備投資の動向を知るうえで先行指標のひとつである機械受注統計の推移を見ても、2022年4月～6月は14,300億円（前年同期比21.2%増）、7月～9月は14,014億円（同10.6%増）、10月～12月は12,255億円（同8.4%減）、1月は3,930億円、2月は4,333億円と、2月には若干の回復が見られたものの、期後半は総じて減少傾向が続きました。

このような環境下、当社グループでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応として、引き続き各セグメントが属する国の状況に応じて時差出勤や在宅勤務等を継続しながら、プラスチック成形関連のコアビジネスにおきましては、品質の向

上、納期の確守、新製品の開発等、競争力強化によるマーケットシェアの拡大を図るとともに、電池、食品、化粧品等の新規販売分野の開拓・拡大に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度における受注高は前年同期比28億6千4百万円増（同13.5%増）の240億8百万円、受注残高は前年同期比43億7千1百万円増（同50.7%増）の130億3百万円となりました。一方、売上高につきましては、サプライチェーンの混乱に伴う部品の供給不足が長期化しているものの、電気自動車（EV）向けのリチウムイオン電池関連の売上が堅調に推移したことに加え、在外子会社の邦貨換算の影響が円安によりプラスに働いたことなどにより、前年同期比4億4千3百万円増（同2.4%増）の188億2千6百万円となりました。

損益面では、材料費を中心とした原価低減や諸経費の削減等に努めましたが、売上総利益率は横ばい（28.1%→28.2%）にとどまり、販売費及び一般管理費の増加を吸収するには至らなかったことから営業利益は前年同期比1億2千1百万円減（同16.0%減）の6億3千8百万円、経常利益は前年同期比9千万円減（同10.0%減）の8億1千3百万円となりました。

特別損益では、固定資産売却益2百万円、投資有価証券売却益1千4百万円を特別利益に、固定資産除売却損7百万円、

減損損失5千3百万円、中国子会社における新型コロナウイルス感染症関連損失1億1百万円等を特別損失に計上し、更に法人税、住民税及び事業税3億2千2百万円、法人税等調整額マ

イナス8百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比1億8千9百万円減(同35.0%減)の3億5千1百万円となりました。

今後の見通しについて

世界経済は、各国におけるウイズコロナ政策の浸透により、経済活動正常化の動きが進む一方、ウクライナ情勢の長期化や資源価格・原材料価格の高騰及びこれらを背景とした先進国におけるインフレの加速など、不透明な状況が続いております。

わが国経済も、5月に新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行されるなど、アフターコロナに向けた経済正常化の動きが一段と進むものと予想されますが、一方で、地政学的リスクの高まりや資源価格の高騰など景気の下振れリスクは強まっております。また、製造業の設備投資につきましては急速な回復は見込めないものの、緩やかな回復が続くものと予想しておりますが、プラスチック関連業界につきましては、2022年におけるコロナ禍に伴うサプライチェーンの混乱の影響が解消されるには至っておらず、今後も電気部品等の供給不足の長期化が懸念されます。

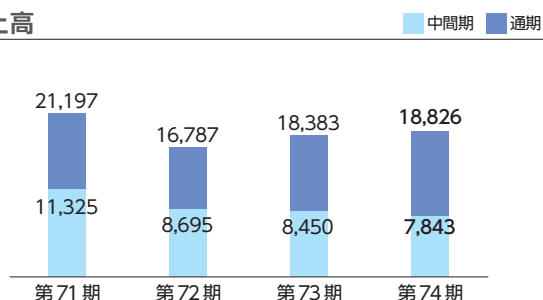
かかる環境下、当社グループにおきましては、引き続き自動車関連業界における自動車の電動化、自動運転化、車体の軽量化等の動きや、ウイズコロナ政策のもと、社会の環境変化に伴うタブレット、PC、スマホ、VR等の通信機器拡大、AI、IoT、5G等のデジタル化推進の動きへの確に対応していくとともに、既存市場、既存分野での販売拡大と収益力向上等を中期的に取り組んでまいります。また、地球レベルでの環境問題(脱炭素、使い捨てプラスチックの削減)に対しては、お客様の生産現場や自社の事業活動及びお客様の製造物を通じて社会に貢献し、透明性の高い企業統治(コーポレートガバナンス)等を実現していくことで経営基盤の強化とESG経営を推進いたします。

翌期につきましては、受注残高の増加に加えて、日本、東アジア、東南アジア、北中米各セグメントにおける着実な需要の取り込みにより売上高242億円、営業利益12億8千万円、経常利益12億5千万円、親会社株主に帰属する当期純利益9億3千万円を予想しております。

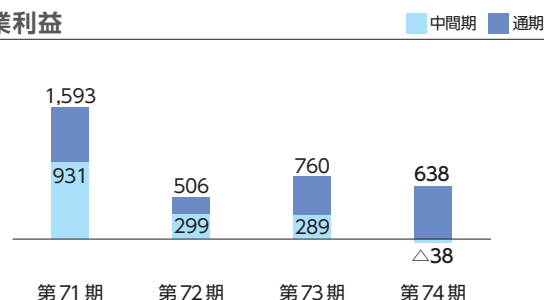
連結財務ハイライト

単位：百万円 / 1株当たり純利益のみ単位：円

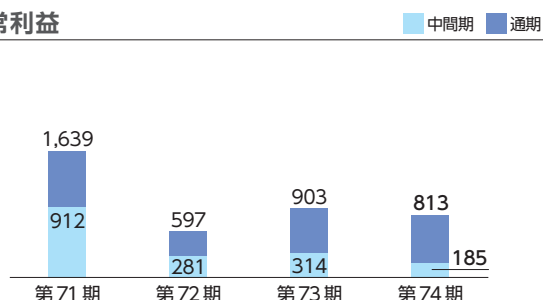
売上高



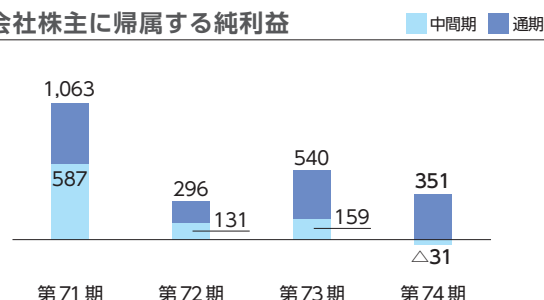
営業利益



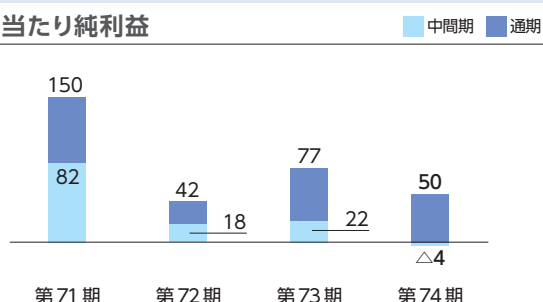
経常利益



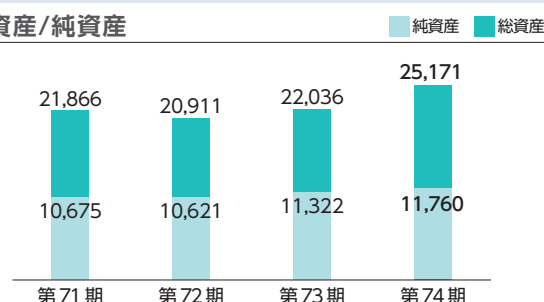
親会社株主に帰属する純利益



1株当たり純利益



総資産/純資産

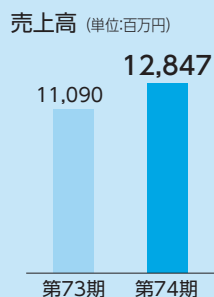


地域別の概況

日本

売上高 12,847 百万円 / 経常利益 958 百万円

売上構成比
63.2%

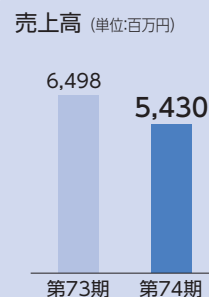


フィルム・シート関連や電気自動車(EV)向けのリチウムイオン電池関連の受注が堅調に推移したことから、売上高は前年同期比プラスの結果となりました。

東アジア

売上高 5,430 百万円 / 経常利益 97 百万円

売上構成比
26.7%

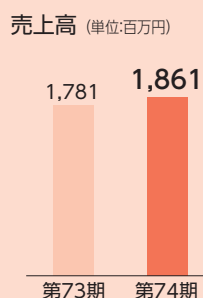


ゼロコロナ政策に伴う上海市のロックダウンによる中国工場の一時操業停止や行動制限により売上が大幅減少しました。一方、台湾はレンズ関連を中心に堅調に推移し、売上高は前年同期比マイナスの結果となりました。

東南アジア

売上高 1,861 百万円 / 経常利益 34 百万円

売上構成比
9.2%

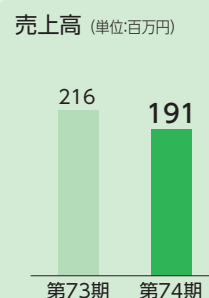


景気は回復の動きがありますが、設備投資の増加までには至りませんでした。中国工場の一時操業停止の影響もあり、売上高は前年同期並みの結果となりました。

北中米

売上高 191 百万円 / 経常損失 85 百万円

売上構成比
0.9%



中米において自動車関連を中心とした需要が回復しつつありますが、売上増には至らず、売上高は前年同期比マイナスの結果となりました。

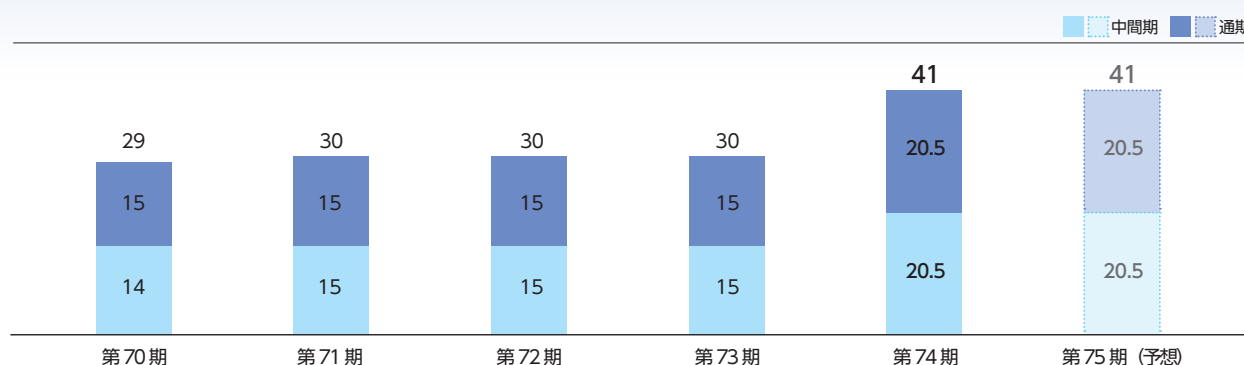
※各セグメントの数値は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

ご案内 配当金について

第74期の1株当たりの中間配当金及び期末配当金は、ともに20.5円となり、合計41円となりました。

<過去5年間の配当金の推移>

単位:円



Topics 01

国際粉体工業展東京2022に出展

当社製品のスーパーミキサーやウィングスケーラーといった「混ぜる」・「計る」機械をメインに、粉体業界における当社の知名度をアップし、食品をはじめとして様々な用途開発のアイデアのお手伝いを通じて、新規拡販に努めました。

- 会場：東京ビッグサイト 東1・2・3ホール
- 主催：一般財団法人 日本粉体工業技術協会
- 日時：(リアル展) 2022年12月7日(水)～9日(金)
(オンライン展) 2022年11月21日(月)～2023年1月27日(金)
- 来場者数：(リアル展) 11,257人
(オンライン展) 6,434人



当社ブース(一部)



説明の様子

Topics 02

「カラートロニック事業」の一部譲受

株式会社クボタ計装にて事業展開してきた「カラートロニック事業」の一部を譲受する契約を2022年9月30日に締結し、2023年4月1日より業務開始いたしました。

これにより、原料輸送機器や計器混合機のラインアップが充実し、更なる事業強化を図ってまいります。



ミコスーパー



ミコウェイ

Topics 03

カワタテクニカルセンター 続報

第74期中間報告書(株主のみなさまへ)でもお知らせしました、カワタテクニカルセンターに関する続報です。2023年3月31日に竣工し、現在は建物内設備・装置の工事を進めております。(2023年夏完成予定)

弊社の主力工場である三田工場の隣接地という格好の立地で、カワタ製品のテストセンターとして製品の常設展示をはじめ各種テスト場をメインに、セミナールームや商談スペースとして活用してまいります。



外観

会社情報

■ 会社の概要 (2023年3月31日現在)

商 号 **株式会社カワタ**
(KAWATA MFG. CO.,LTD.)

本 社 〒550-0011
大阪市西区阿波座1-15-15

設 立 1951年7月13日

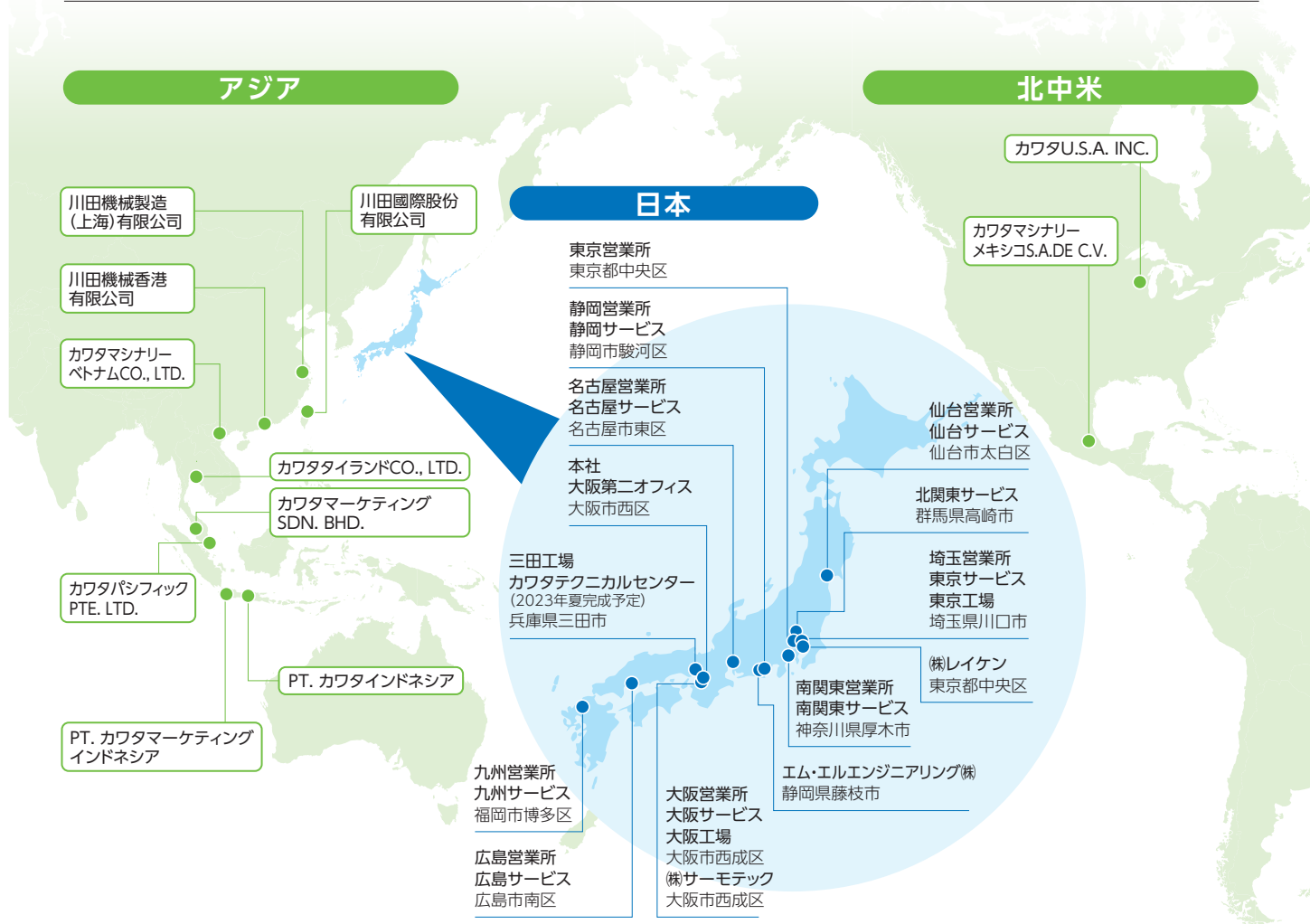
資 本 金 977,142,640円

従 業 員 数 238名 (連結807名)
(使用人兼務取締役、出向社員、契約社員、パート
タイマー及び嘱託再雇用社員は除く)

■ 役員 (2023年6月28日現在)

代 表 取 締 役 社 長	白 石 互
取 締 役	白 井 英 徳
取 締 役	木 水 均
取 締 役	橋 本 敏 郎
取締役常勤監査等委員	田 端 久 和
取締役監査等委員	渡 部 寛
取締役監査等委員	伊 藤 芳 伸
取締役監査等委員	飯 塚 一 雄

■ カワタグローバルネットワーク



WEBサイトのご案内

詳しいIR情報は、当社ホームページにて掲載しています。

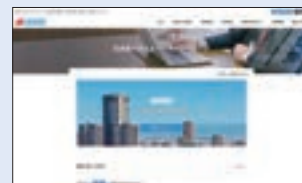
<https://www.kawata.cc/>

株式会社カワタ

検索



トップページ



IRページ

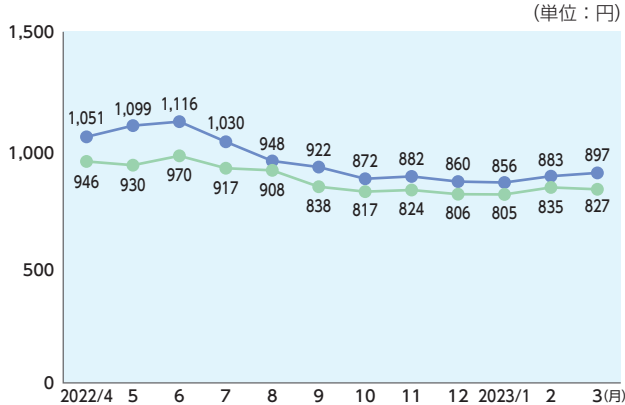
株式情報

2023年3月31日現在

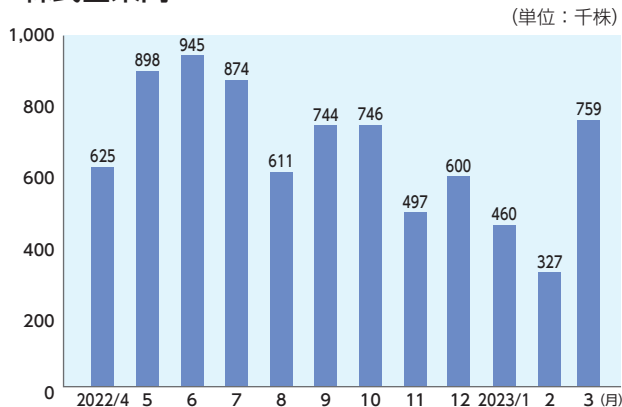
株式の状況

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	7,210,000株
単元株式数	100株
株主数	7,843名
	(前期末比733名減)

株価(高値・安値)



株式出来高

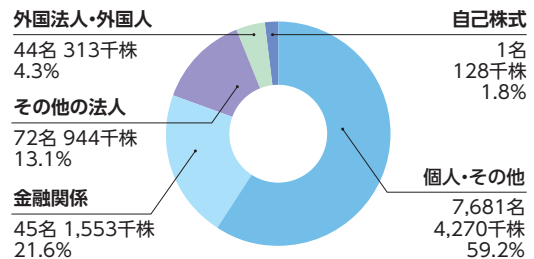


大株主(上位10名)

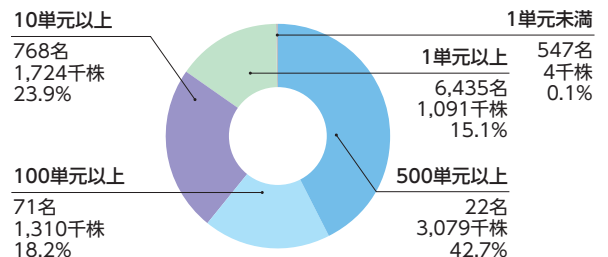
株主名	持株数
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	507,000株
カワタ共伸会	492,600
カワタ従業員持株会	261,480
(株)三菱UFJ銀行	227,300
(株)日本カストディ銀行(信託口)	148,500
日本生命保険相互会社	110,700
明治安田生命保険相互会社	110,000
大阪中小企業投資育成(株)	110,000
日本システムコントロール(株)	109,200
日本マスタートラスト信託銀行(株)(役員報酬BIP信託口・76541口)	103,253

(注) 上記のほか、自己株式が128,249株あります。

所有者別分布表



所有株式数別分布表



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月中

基準日 定時株主総会 3月31日
 剰余金の配当 期末3月31日
 中間9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町3-6-3
 ☎0120-094-777 (通話料無料)

公告方法 電子公告
 ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
 当社ホームページ (<https://www.kawata.cc/>) に掲載

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

会計監査人 EY新日本有限責任監査法人

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。